

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	理科	科目：	物理	単位数：	4	指導学年：	3年
担当教諭：							
使用教科書	物理（数研出版）	副教材	新編 アクセス総合物理（浜島書店）				

年間指導目標：
2年次で学習した物理基礎の内容を基礎に物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。また、物理的な事物・現象に対する研究心を高め、目的意識を持って観察・実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てる。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	2年次に物理基礎で学習した内容を踏まえ、基本的な原理や法則について、その成り立ちや意味を理解し、公式を必要に応じて利用して、問題を間違いなく解くことができるか。	科学的なものの見方・考え方ができるか。 公式の導出課程が理解できるか。 公式を用いて計算ができるか。 初見の問題でも適切に考え、解答にたどり着けるか。	授業中にノートを取り、自分が理解できない所は適切に質問できているか。 自分で問題に取り組み、解き方がわからないときは適切に質問し、答えまでたどりつけているか。

評価方法							配当 時数	
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度				
観点	評価規準		a	b	c	d	e	24
(知)	公式を正しく問題に用いられているか。 間違いなく計算し答えにたどり着いているか。		○	○	○			
(思)	学習した内容を理解できたか。 原理や法則を理解し、公式を応用問題に適用できたか。		○	○				
(態)	板書事項を適切にノートできたか。 問題演習プリントに真面目に取り組んだか。 自分が理解できなかった点を質問できたか。			○			○	
(知)	公式を正しく問題に用いられているか。 間違いなく計算し答えにたどり着いているか。		○	○	○			24
(思)	学習した内容を理解できたか。 原理や法則を理解し、公式を応用問題に適用できたか。		○	○				
(態)	板書事項を適切にノートできたか。 問題演習プリントに真面目に取り組んだか。 自分が理解できなかった点を質問できたか。			○			○	

2 学 期	中 間 考 査	第3編 第3章 光波	(知)	公式を正しく問題に用いられているか。 間違いなく計算し答えにたどり着いているか。	○	○	○			32
		第4編 第1章 電場	(思)	学習した内容を理解できたか。 原理や法則を理解し、公式を応用問題に適用できたか。	○	○				
		(態)	板書事項を適切にノートできたか。 問題演習プリントに真面目に取り組んだか。 自分が理解できなかった点を質問できたか。		○			○		
2 学 期	期 末 考 査	第4編 第2章 電流 第3章 電流と磁場 第4章 電磁誘導 交流 電磁波	(知)	公式を正しく問題に用いられているか。 間違いなく計算し答えにたどり着いているか。	○	○	○			32
		(思)	学習した内容を理解できたか。 原理や法則を理解し、公式を応用問題に適用できたか。	○	○					
		(態)	板書事項を適切にノートできたか。 問題演習プリントに真面目に取り組んだか。 自分が理解できなかった点を質問できたか。		○			○		
3 学 期	学 年 末 考 査	第5編 第1章 電子と光 第2章 原子と原子核	(知)	公式を正しく問題に用いられているか。 間違いなく計算し答えにたどり着いているか。	○	○	○			44
		(思)	学習した内容を理解できたか。 原理や法則を理解し、公式を応用問題に適用できたか。	○	○					
		(態)	板書事項を適切にノートできたか。 問題演習プリントに真面目に取り組んだか。 自分が理解できなかった点を質問できたか。		○			○		
合計										156

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	理科	科目：	化学	単位数：	4	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	高等学校 化学（第一学習社）	副教材	リードLightノート化学（数研出版） フォトサイエンス化学図録（数研出版）				

年間指導目標：

化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるよう

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	化学の基本的な概念や原理・法則を理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する操作や記録などの技能を身に付けている。	化学的な事物・現象から問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	化学的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

評価方法										
a:定期考査		b:パフォーマンス (実技・実習・課題)		c:小テスト等		d:自己評価		e:授業態度		配当 時数
観点	評価規準	a	b	c	d	e				
(知)	・物質の三態の変化を復習し、その変化に伴う熱の出入りを理解する。 ・ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則をそれぞれ理解し、その応用を理解する。 ・化学結合と結晶の性質について、復習する。 ・溶解のしくみを理解し、固体および気体の溶解度を溶解平衡と関連付けて理解する。	○	○	○			24			
(思)	・観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりしている。		○			○				
(態)	・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。		○		○	○				
(知)	・化学反応の前後における物質のもつ化学エネルギーの差が熱の発生や吸収となって現れることを理解する。 ・電気エネルギーを取り出す電池のしくみを酸化還元反応と関連付けて理解する。 ・反応速度が単位時間内に変化する物質の量で表されることを理解する。 ・可逆反応と不可逆反応、および化学平衡の意味を理解する。 ・弱酸・弱塩基の電離平衡や水の電離平衡について理解する。	○	○	○			24			

			(思)	・観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりしている。		○			○		
			(態)	・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。		○		○	○		
2 学 期	中 間 考 査	第Ⅲ章 無機物質	(知)	・元素の分類を理解する。	○	○	○				
		第1節 周期表と元素の性質		・典型元素の性質が周期表にもとづいて整理できることを理解する。							
		第2節 非金属元素		・遷移元素について、その特徴や性質などを理解							
		第3節 典型金属元素									
		第4節 遷移元素	(思)	・観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりしている。		○			○	32	
			(態)	・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。		○		○	○		
2 学 期	期 末 考 査	第Ⅳ章 有機化合物	(知)	・有機化合物の特徴と分類について理解する。	○	○	○				
		第1節 有機化合物の特徴		・飽和炭化水素の性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。							
		第2節 脂肪族炭化水素		・アルコール、エーテルの性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。							
		第3節 酸素を含む脂肪族化合物		・芳香族炭化水素の性質や反応を、その構造と関連付けて理解する。							
		第4節 芳香族化合物	(思)	・観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりしている。		○			○	32	
			(態)	・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。		○		○	○		
3 学 期	学 年 末 考 査	第Ⅴ章 高分子化合物	(知)	・高分子化合物の特徴や分類を理解する。	○	○	○				
		第1節 高分子化合物		・多糖について、その構造や性質を理解する。							
		第2節 天然高分子化合物		・合成繊維・合成樹脂について、その構造や性質、用途を理解する。							
		第3節 合成高分子化合物		・化学が果たしてきた役割として、さまざまな物質がそれぞれの特徴を生かして人間生活の中で利用され、日常生活や社会を豊かにしていることを理解する。							
		終章 化学の築く未来	(思)	・観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりしている。		○			○	44	
			(態)	・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。		○		○	○		
										合計	156

教科・分野：	理科	科目：	生物演習	単位数：	4 単位	指導学年：	3 学年
担当教諭：							
使用教科書	なし		副教材	自作のプリントなど			

生物や生物現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	・生物や生物現象について、それらの基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を身につけている。 ・自然界のさまざまな事象を科学的に考察する能力と、豊かな科学的素養を身につけている。 ・観察・実験の技能を習得している。	・生物学的な方法で生物や生物現象に関する問題を取り扱い、自然を科学的にとらえられる。 ・科学的に探究する方法を身につけ、それらの過程や結果及びそこから導き出した考えを的確に表現することができる。	・生物や生物現象を通して自然に対する関心や探究心をもち、基本的な概念や原理・法則を理解する意欲とともに、科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとする。

評価方法							配当 時数
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度			
観点	評価規準						
(知)	・植物が外部の環境に影響されてみせるさまざまな現象を、屈性などの伸長成長や、発芽、花芽形成などの器官分化などの学習を通じて身につけている。	○	○				24
(思)	・伸長成長や、発芽、器官分化などの現象が巧妙に制御されていること、それらがさまざまな実験によって明らかにされてきたことを理解し、科学的に判断できる。	○	○	○			
(態)	・植物の反応や調節が植物ホルモンによって行われていることを理解し、身につけようとする。 ・科学的な自然観や生物学的に探究する能力と態度を身につけようとする。		○	○	○	○	
(知)	・歴史的な進化説と現在の進化説の基本的な発想の視点を踏まえ、底流にある基本概念を把握している。 ・現在では系統に基づく視点からの分類法が最も	○	○				24
(思)	・遺伝子が分配されるしくみである減数分裂について理解し、遺伝子の変化がどのように子に伝わるかを考察できる。 ・生物体にみられる様々な働きが、酵素による触	○	○	○			
(態)	・現生種についての比較形態、比較発生、生物分布などの資料から進化の証拠を理解し、進化説の理解を深めようとする。 ・分子レベルでの生物現象の把握を主な目的として、タンパク質や核酸な		○	○	○	○	

2 学 期	中 間 考 査	3節 代謝	(知)	・生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成からとり出すしくみを理解している。 ・メセルソンとスタールの実験結果とともに、半保存的複製のしくみを理解している。	○	○				32							
		第3章 遺伝情報の発現と発生									(思)	・エネルギーの利用に際して、ATPがエネルギーの通貨として働いていることを理解し、科学的に考察できる。 ・X-galを用いた大腸菌の培養実験をもとに、遺伝	○	○	○		
		1節 遺伝情報とその発現															
			(態)	・生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解しようとする。 ・遺伝子の発現調節のしくみについて、調節遺伝子やプロモーター、転写調節領域などの語句を用		○	○	○	○								
2 学 期	期 末 考 査	2節 発生と遺伝子発現	(知)	・動物の配偶子のでき方を理解している。 ・発生のしくみについては、結果としてわかっていることを覚えているだけでなく、実験によって、そのしくみが次第に明らかになってきた過程	○	○				32							
		3節 遺伝子を扱う技術									(思)	・生殖細胞がつくられる過程と意義を科学的に考察できる。 ・受精については、生殖細胞の合体により染色体数が復元し、新しい体細胞のもとができる過程と	○	○	○		
		第4章 生物の環境応答															
		1節 動物の反応	(態)	・動物の発生とそのしくみについては、ヒトとの共通点のあるカエルについて学習し、形態形成運動や誘導などの働きによって複雑なからだのつくりができあがっていく過程を理解しようとする。		○	○	○	○								
		2節 動物の行動															
3 学 期	学 年 末 考 査	第5章 生態と環境	(知)	・生物の集団を個体群としてとらえ、そこにみられる現象や法則性を理解している。 ・生態系の構造や働きと、その平衡のしくみを理解している。		○				44							
		1節 個体群と生物群集									(思)	・生物の生活は環境と深い関わりをもっていることを、身近な現象についてとり上げながら、すでに学習した知識を活用して考えようとする。 ・異なる2種の個体群間の関係、さらに、より多		○			
		2節 生態系															
			(態)	・生物は生物集団として、無機的环境やほかの生物集団とのあいだでさまざまな関係をもちながら生活していることを理解することによって、環境と生物の関係を総合的にとらえようとする。		○		○	○								
合計										156							

東京都立八王子桑志高等学校 令和6年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	理科	科目：	物理基礎演習	単位数：	2	指導学年：	3年
担当教諭：							
使用教科書	物理基礎（数研出版）	副教材	新編 アクセス総合物理（浜島書店）				

年間指導目標：
2年次で学習した物理基礎の内容を基礎に物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を問題演習を通して深める。大学共通テストの物理基礎に対応できる問題に対する解答力を身に付ける。。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	基本的な原理や法則について、その成り立ちや意味を理解し、公式を必要に応じて利用して、問題を間違いなく解くことができる。	科学的なものの見方・考え方を踏まえて問題を解けるか。 公式を用いるだけでなく、初見の問題でも適切に考え、解答にたどり着けるか。	問題演習に取り組み、自分で解けない問題に適切に質問して、答えまでたどりつけているか。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	運動の	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期	中 間 考 査	運動の表し方の復習 問題演習	(知)	公式を正しく問題に用いられているか。 間違いなく計算し答えにたどり着いているか。	○	○				12
		力と運動の法則の復習 問題演習	(思)	原理や法則を理解し、公式を応用問題に適用できたか。	○	○				
			(態)	問題演習に真面目に取り組んだか。 自分が理解できなかった点を質問できたか。		○			○	
1 学期	期 末 考 査	仕事とエネルギーの復習 問題演習	(知)	公式を正しく問題に用いられているか。 間違いなく計算し答えにたどり着いているか。	○	○				12
		力学総合問題の演習	(思)	原理や法則を理解し、公式を応用問題に適用できたか。	○	○				
		熱とエネルギーの復習 問題演習	(態)	問題演習に真面目に取り組んだか。 自分が理解できなかった点を質問できたか。		○			○	

2 学 期	中 間 考 査	波の性質の復習 問題演習	(知)	公式を正しく問題に用いられているか。 間違いなく計算し答えにたどり着いているか。	○	○				16
		音波の復習・問題演習	(思)	原理や法則を理解し、公式を応用問題に適用できたか。	○	○				
			(態)	問題演習に真面目に取り組んだか。 自分が理解できなかった点を質問できたか。		○			○	
2 学 期	期 末 考 査	電気とエネルギーの復習 問題演習	(知)	公式を正しく問題に用いられているか。 間違いなく計算し答えにたどり着いているか。	○	○				16
		総合問題の演習	(思)	原理や法則を理解し、公式を応用問題に適用できたか。	○	○				
			(態)	問題演習に真面目に取り組んだか。 自分が理解できなかった点を質問できたか。		○			○	
3 学 期	学 年 末 考 査	総合問題の演習	(知)	公式を正しく問題に用いられているか。 間違いなく計算し答えにたどり着いているか。	○	○				22
		模擬問題の演習	(思)	原理や法則を理解し、公式を応用問題に適用できたか。	○	○				
			(態)	問題演習に真面目に取り組んだか。 自分が理解できなかった点を質問できたか。		○			○	
合計										78

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	理科	科目：	化学基礎演習	単位数：	2	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	高等学校化学基礎（第1学習社）	副教材	自作プリント				

年間指導目標：

物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を化学的に探究するために必要な資質・能力を次の通り育成することを目指す。

共通テスト等の受験に対応できる力をつける。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	自然の事物・現象についての概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの技能を身に付けている。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。	自然の事物・現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配 当 時 数
1 学 期	中 間 考 査	序章 化学と人間生活	(知)	・物質が混合物と純物質、および単体と化合物に分けられることを理解し、それらの違いを理解している。	○		○	○	○	12
		第1章 物質の構成		・粒子の熱運動と粒子間に働く力との関係によって、状態が変化することを理解している。						
		第1節 物質の成分と構成元素								
1 学 期	期 末 考 査	①物質の成分	(思)	・観察・実験を通して、混合物、純物質、単体、化合物について考察し、それぞれの特徴を説明できる。	○		○	○	○	12
		②物質の構成元素		・粒子の熱運動と温度の関係や、粒子の熱運動と粒子間に働く力の関係をもとに、温度と物質の状態変化の関係を的確に表現することができる。						
		③状態変化と熱運動								
1 学 期	期 末 考 査	第2節 原子の構造と元素の周期表	(態)	・物質に関心をもち、物質の取り扱い方を理解しようとする。			○	○	○	12
		①原子の構造		・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。						
		②イオン								
1 学 期	期 末 考 査	③元素の相互関係	(知)	・原子の構造および陽子、中性子、電子の性質を理解し、知識を身に付けている。	○		○	○	○	12
				・原子の電子配置を理解し、原子番号20番までの代表的な典型元素について、簡単なモデルで表すことができる。						
1 学 期	期 末 考 査		(思)	・原子の電子配置と周期表の族や周期との関係を理解し、周期性が現れる理由を的確に表現することができる。	○		○	○	○	12
				・物質の構造や性質に関する事象に関心をもち、意欲的に物質を探究しようとする。			○	○	○	
				・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。						

2 学 期	中 間 考 査	第3節 化学結合 ①イオン結合 ②共有結合 ③金属結合 ④結晶の比較 ⑤結晶と単位格子	(知)	・イオン結合やイオン結合でできた物質の性質を理解し、知識を身に付けている。 ・共有結合を電子配置と関連付けて理解し、共有結合の表し方や配位結合についての知識も身に付けている。 ・電気陰性度や結合の極性を理解し、分子の極性についての知識を身に付けている。 ・共有結合でできた物質の性質を理解し、知識を身に付けている。 ・金属結合や金属結晶の性質について理解し、知識を身に付けている。	○		○	○	○	16
			(思)	・イオン結晶の性質をイオンやイオン結合にもとづいて説明できる。 ・分子の極性を電気陰性度や結合の極性、分子の形をもとに総合的に判断できる。 ・金属結晶の性質を金属結合にもとづいて的確に表現できる。 ・物質の性質を調べる実験を通して、化学結合と結晶の性質の関係を考察できる。 ・観察・実験の過程から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりできる。	○		○	○	○	
			(態)	・物質に関心をもち、物質の取り扱い方を理解しようとする。 ・物質の構造や性質に関する事象に関心をもち、意欲的に物質を探究しようとする。			○	○	○	
2 学 期	期 末 考 査	第2章 物質の変化 第1節 物質と化学反応式 ①原子量・分子量と式量 ②物質質量 ③溶解と濃度 ④化学変化と化学反応式 ⑤化学反応の量的関係 ⑥化学変化における諸法則	(知)	・物質の構成粒子の質量の表し方として、原子量・分子量・式量を理解している。 ・物質質量が粒子の数にもとづく量であることを理解し、物質質量と質量、気体の体積との関係も理解する。	○		○	○	○	16
			(思)	・化学変化では、一定の量的関係が成り立つことを理解し、化学反応式をもとに物質の量的関係を判断できる。 ・実験で得られたデータをグラフ化するなどの処理を行い、結果を化学的に考察することができる。 ・化学反応の量的関係の実験から、自らの考えを導き出した報告書を作成したり、発表したりできる。	○		○	○	○	
			(態)	・化学変化の量的関係を物質質量と関連付けて考察しようとする。 ・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。			○	○	○	

3 学 期	学 年 末 考 査	第2節 酸と塩基の反応 ①酸と塩基 ②水素イオン濃度 ③中和と塩 ④中和滴定 第3節 酸化還元反応 ①酸化と還元 ②酸化剤と還元剤の反応 ③酸化還元の量的関係 ④金属のイオン化傾向 ⑤電池 ⑥金属の製錬 ⑦電気分解 終章 化学が拓く世界	(知)	・酸と塩基の定義や分類を理解し、酸と塩基を価数や強弱にもとづいて分類することができる。 ・水溶液の性質(酸性・中性・塩基性)と水素イオン濃度やpHとの関係を理解し、知識を身に付けている。 ・中和反応について理解し、塩のなりたちや塩の水溶液の性質を理解している。 ・中和反応に関与する物質の量的関係を理解し、中和反応における酸と塩基の量的関係を計算によって求めることができる。 ・中和滴定の操作や中和滴定曲線を理解し、実験器具の適切な取り扱いやグラフの見方などの知識を身に付けている。 ・酸化・還元の定義を理解し、知識を身に付けている。 ・酸化還元反応を酸化数の増減によって判断することができる。 ・酸化剤、還元剤のはたらきを理解し、半反応式をもとに酸化還元反応を組み立てることができる。 ・酸化還元反応の量的関係を理解している。 ・金属のイオン化傾向や金属の反応性を理解し、知識を身に付けている。 ・酸化還元反応の利用例として、電池や電気分解などがあることを理解し、電池の構成などの基本的な知識を身に付けている。	○		○	○	○	22
		(思)	・酸・塩基の観察、実験から共通性を見だし、酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連付けて考察する。 ・中和滴定の実験を通して、それぞれの操作がどのような意味をもっているのかを理解し、実験結果に対してどのような影響があるかを考察できる。 ・代表的な酸化剤・還元剤の観察から電子の授受としての規則性を見だし、自らの考えで表現できる。	○		○	○	○		
		(態)	・酸、塩基や中和反応に関心をもち、それらを日常生活に関連付けて、意欲的に探究しようとする。 ・酸と塩基の反応の量的関係を物質質量と関連付けて考察しようとする。 ・燃烧、金属の溶解や腐食などの反応に興味をもち、電子の授受という観点から、それらを意欲的に探究しようとする。 ・酸化還元反応の量的関係を物質質量と関連付けて考察しようとする。 ・学習課題に対して積極的に観察・実験を行い、意欲的に探究しようとする。			○	○	○		
		合計							78	

評価方法							配当 時数
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度			
観点	評価規準						
(知)	・生物の共通性と多様性について、すべての生物で細胞が共通の構造であることを理解している。 ・原核細胞と真核細胞の違いについて、それらの細胞に含まれる細胞小器官の違いとともに理解し	○	○				12
(思)	・資料や実験をもとに、生物に共通する性質を見だし表現することができる。 ・細胞が生物の基本構造であることを、生物学的な視点から考察することができる。	○	○	○			
(態)	・生物の共通性を、実験や観察を通して見だし、理解しようとする。 ・原核細胞と真核細胞について、その細胞に含まれる細胞小器官を基に、違いを理解しようとする		○	○	○	○	
(知)	・生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解している。 ・生体内で行われる化学反応は、酵素が触媒していることを理解している。	○	○				12
(思)	・呼吸や光合成からエネルギーを得る方法を、関連づけて考察し、それを表現できる。 ・カタラーゼを用いた実験から、酵素の作用と作用する物質の関係について結果を導き出すことが	○	○	○			
(態)	・資料に基づいて、生命活動にエネルギーが必要であることを理解しようとする。また、呼吸や光合成から得ていることを理解しようとする。 ・体内で行われる化学反応は、酵素が関わってい		○	○	○	○	

2 学 期	中 間 考 査	3章 ヒトのからだの調節	(知)	・解剖など生体を扱う技能を習得している。	○	○				16
		2節 体内環境の維持のしくみ		・神経やホルモンの働きにより体内環境が維持されることを理解している。						
		1 情報の伝達		・病原体などの異物を認識・排除するしくみを理						
		2 自律神経系による情報伝達		・体の調節に関する観察、実験などを行い、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして理解することができる。						
2 学 期	期 末 考 査	3 内分泌系による情報伝達	(思)	・血糖濃度調節のしくみを、ホルモンと自律神経	○	○	○			16
		4 内分泌系と自律神経系による調節		・観察、実験に基づいて、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見だし、理解しようとする。						
		3節 免疫		・病原体などの異物を認識・排除するしくみを理						
		1 生体防御と免疫								
2 学 期	期 末 考 査	4章 生物の多様性と生態系	(知)	・生態系内における多様性、生物どうしのかかわりあいについて理解している。	○	○				16
		3節 生態系と生物の多様性		・生態系のバランスや、生態系の保全の重要性について理解している。						
		1 生物の多様性		・生態系の保全の重要性について、生物の多様性の視点から考察することができる。						
		4節 生態系のバランスと保全		・資料に基づき、DNAの構造を科学的に見いだすことができる。						
2 学 期	期 末 考 査	1 生態系のバランス	(思)	・資料に基づき、DNAの構造を科学的に見いだすことができる。	○	○	○			16
		2 人間生活による環境への影響		・生物が多様であることを、食物網や間接効果と関連付けて説明できる。						
		3 生態系の保全の重要性		・生態系のバランスや、生態系を保全することが重要であることを理解しようとする。						
		2章 遺伝子とその働き								
3 学 期	学 年 末 考 査	2章 遺伝子とその働き	(知)	・DNAの塩基配列に基づいて、タンパク質が合成されることを理解している。		○				22
		2節 遺伝子とタンパク質の合成		・遺伝子の発現について理解し、細胞ごとに特定の遺伝子が発現することを理解する。						
		1 遺伝子とタンパク質		・DNAの遺伝情報に基づいてタンパク質が合成される過程を体系的に考察し、表現できる。						
		2 タンパク質の合成								
3 学 期	学 年 末 考 査	3 遺伝子の発言	(思)			○				22
		4 ゲノムと遺伝子								
3 学 期	学 年 末 考 査		(態)	・DNAの塩基配列の情報に基づいて、タンパク質が合成されることを理解しようとする。		○		○	○	78
合計										78

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	英語	科目：	英語演習	単位数：	2	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	BIG DIPPER English Communication II	副教材	Viewpoint Advanced（数研出版）、Reading Express Book 2（Z会） Cutting Edge Yellow（エミル出版）、Listen for It 2（いっずな書店）				

年間指導目標：
大学入試に必要な語彙力、文法、語彙、熟語等の素地を養う。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	5分野（長文読解、文法、英作文、語い・イディオム、リスニング）を用いて、まとまった分量の英文やアナウンスについて要点を掴みながらある程度の時間で内容を把握することが出来る技能を身に付けている。	本文や演習問題で語られている内容や場面、社会的な話題について、状況などに応じて、英語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、適切に表現できている。	本文で語られている内容の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を用いて、適切な文法表現や語いを用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

評価方法										
a:定期考査		b:パフォーマンス (実技・実習・課題)		c:小テスト等		d:自己評価		e:授業態度		
										配当 時数
観点	評価規準				a	b	c	d	e	
(知)	各Unit本文の内容について、事実や自分の考えを整理し、語彙や、注釈等の言語材料、Grammarの文法項目を用いて伝えたり、教科書の設問に答える技能を身に付けている。				○		○			12
(思)	各Unit 本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしている。				○		○			
(態)	テキストの内容に基づいて、自分の気持ちや考えを伝えるために、ターゲットとなる文法事項を用いて質問に答えたり、短い英文を書いたりしようとしている。					○	○	○	○	
(知)	各Unit本文の内容について、事実や自分の考えを整理し、語彙や、注釈等の言語材料、Grammarの文法項目を用いて伝えたり、教科書の設問に答える技能を身に付けている。				○		○			12
(思)	各Unit 本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしている。				○		○			
(態)	テキストの内容に基づいて、自分の気持ちや考えを伝えるために、ターゲットとなる文法事項を用いて質問に答えたり、短い英文を書いたりしようとしている。					○	○	○	○	

2 学 期	中 間 考 査	[教] Big Dipper II Lesson 5-8復 習 [副] RE2 : 9-13 VP : 7-15 Lfl : 5-10	(知)	各Unit本文の内容について、事実や自分の考えを整理し、語彙や、注釈等の言語材料、Grammarの文法項目を用いて伝えたり、教科書の設問に答える技能を身に付けている。	○		○			16
			(思)	各Unit 本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしている。	○		○			
			(態)	テキストの内容に基づいて、自分の気持ちや考えを伝えるために、ターゲットとなる文法事項を用いて質問に答えたり、短い英文を書いたりしようとしている。		○	○	○	○	
2 学 期	期 末 考 査	[教] Big Dipper II Lesson 5-8復 習 [副] RE2 : 14-18 CEY : 1-4 Lfl : 11-16	(知)	各Unit本文の内容について、事実や自分の考えを整理し、語彙や、注釈等の言語材料、Grammarの文法項目を用いて伝えたり、教科書の設問に答える技能を身に付けている。	○		○			16
			(思)	各Unit 本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしている。	○		○			
			(態)	テキストの内容に基づいて、自分の気持ちや考えを伝えるために、ターゲットとなる文法事項を用いて質問に答えたり、短い英文を書いたりしようとしている。		○	○	○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	[教] Big Dipper II Lesson 9-10 復習 [副] RE2 : 19-24 CEY : 5-8 Lfl : 17-20	(知)	各Unit本文の内容について、事実や自分の考えを整理し、語彙や、注釈等の言語材料、Grammarの文法項目を用いて伝えたり、教科書の設問に答える技能を身に付けている。	○		○			22
			(思)	各Unit 本文の内容について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を話したり／書いたりしている。	○		○			
			(態)	テキストの内容に基づいて、自分の気持ちや考えを伝えるために、ターゲットとなる文法事項を用いて質問に答えたり、短い英文を書いたりしようとしている。		○	○	○	○	
合計										78

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	芸術	科目：	音楽制作演習	単位数：	2	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	自主教材	副教材					

年間指導目標：
・学習してきた読譜能力の向上とまとめ

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	・様々な舞台芸術の特徴を生かして、音楽表現するために必要な技能を身に付け創造的に表す。	・各自が選曲した楽曲について楽曲の特徴や雰囲気、楽器の音色や奏法を表現することに主体的に取り組む。	・バレエ音楽、ミュージカルの特徴を理解する。また、それらの文化や歴史に関心を持ち、生かした表現意図を持つ。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期	中間 考査	・単旋律聴音 ・リズム聴音 ・合唱、ソルフェージュ	(知)	・音階や音型などの特徴について理解している。		○	※	※	○	12
			(思)	・リズム、旋律、形式を知覚し感受したことの関りについて考えている。		○	※	※	○	
			(態)	・リズム、旋律、形式を聞くことに関心を持ち、学習活動に取り組もうとしている。		○	※	※	○	
1 学期	期末 考査	・バレエ音楽「くるみ割り人形」（鑑賞・実技） ・西洋音楽史	(知)	・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関りについて理解している。		○	※	※	○	12
			(思)	・音色、速度、強弱を知覚し、感受したこととの関りについて考えるとともに、どのように演奏するか表現意図を持っている。		○	※	※	○	
			(態)	・オーケストラなどの様々な楽器の音色や響き、曲想に関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞学習に取り組もうとしている。		○	※	※	○	

2 学 期	中 間 考 査	・単旋律 ・新曲視唱 ・ミュージカル「ウェスト サイド物語」（鑑賞・実 技）	(知)	・曲にふさわしい唱法、奏法、身体の使い方などの技能を身に付け表している。		○	※	※	○	16
			(思)	・音色、速度、強弱を知覚し、感受したこととの関りについて考えるとともに、どのように演奏するか表現意図を持っている。		○	※	※	○	
			(態)	・総合芸術について、物語と音楽が関わり合いながら、どのような表現上の効果をもたらしているか関心を持ち、主体的・協働的に演奏や鑑賞の学習活動に取り組んでいる。		○	※	※	○	
2 学 期	期 末 考 査	・打楽器実技	(知)	・曲想と楽器の音色や奏法との関り、様々な表現形態による器楽表現の特徴について理解している。		○	※	※	○	16
			(思)	・音色、速度、強弱を知覚し、感受したこととの関りについて考えるとともに、どのように演奏するか表現意図を持っている。		○	※	※	○	
			(態)	・音色を工夫したりしながらイメージを持って演奏することに関心を持ち、主体的・協働的に学習活動に取り組んでいる。		○	※	※	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	・グループ実習発表	(知)	・曲想と楽器の音色や奏法との関り、様々な表現形態による器楽表現の特徴について理解している。		○	※	※	○	22
			(思)	・音色、速度、強弱を知覚し、感受したこととの関りについて考えるとともに、どのように演奏するか表現意図を持っている。		○	※	※	○	
			(態)	・音色を工夫したりしながらイメージを持って演奏することに関心を持ち、主体的・協働的に学習活動に取り組んでいる。		○	※	※	○	
合計										78

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	芸術	科目：	絵画技法研究	単位数：	2	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	自主教材		副教材	自主教材・参考作品			

年間指導目標：
・ 絵画の技法研究を通して、造形的な見方、考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や文化と幅広く関わる姿勢や能力を育成することを目標とする。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	・ 対象や事象を捉え造形的な視点について理解を深める。 ・ 表現に必要な基礎的技能を身に付ける。	・ 課題の趣旨を理解する。 ・ 美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはたらかせ、制作を行う。	・ 対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り組む。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期	中間 考査	・ 素描（細密描写） 美術の表現に必要な素描の基礎と応用について学ぶ。	(知)	・ 対象や事象を捉え造形的な視点について理解を深める。 ・ 表現に必要な基礎的技能を身に付ける。		○	※	※	○	12
			(思)	・ 課題の趣旨を理解する。 ・ 美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはたらかせ、制作を行う。		○	※	※	○	
			(態)	・ 対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り組む。		○	※	※	○	
1 学期	期末 考査	・ 素描（石膏像） 美術の表現に必要な素描の基礎と応用について学ぶ。	(知)	・ 対象や事象を捉え造形的な視点について理解を深める。 ・ 表現に必要な基礎的技能を身に付ける。		○	※	※	○	12
			(思)	・ 課題の趣旨を理解する。 ・ 美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはたらかせ、制作を行う。		○	※	※	○	
			(態)	・ 対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り組む。		○	※	※	○	

2 学 期	中 間 考 査	・制作 制作を通して絵画技法の研究を行う。	(知)	・対象や事象を捉え造形的な視点について理解を深める。 ・表現に必要な基礎的技能を身に付ける。		○	※	※	○	16
			(思)	・課題の趣旨を理解する。 ・美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはたらかせ、制作を行う。		○	※	※	○	
			(態)	・対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り組む。		○	※	※	○	
2 学 期	期 末 考 査	・制作 制作を通して絵画技法の研究を行う。	(知)	・対象や事象を捉え造形的な視点について理解を深める。 ・表現に必要な基礎的技能を身に付ける。		○	※	※	○	16
			(思)	・課題の趣旨を理解する。 ・美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはたらかせ、制作を行う。		○	※	※	○	
			(態)	・対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り組む。		○	※	※	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	・制作 制作を通して絵画技法の研究を行う。 ・鑑賞 絵画技法に関する内容の鑑賞を行う。	(知)	・対象や事象を捉え造形的な視点について理解を深める。 ・表現に必要な基礎的技能を身に付ける。		○	※	※	○	22
			(思)	・課題の趣旨を理解する。 ・美術の表現に必要な知識や技能を総合的にはたらかせ、制作を行う。		○	※	※	○	
			(態)	・対象や事象を捉え、丁寧に粘り強く学習に取り組む。		○	※	※	○	
合計										78

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	家庭	科目：	保育基礎	単位数：	2	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	保育基礎（教育図書）		副教材				

年間指導目標：
家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、保育を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	・子どもの発達や生活の特徴、保育、福祉や文化などについての知識を体系的・系統的に身につけている。 ・子どもの発達の特性や発達過程に対応した技術を身につけている。	・子どもを取り巻く課題を見つけ、保育を担う職業人の視点から合理的かつ創造的に解決するために、思考を深め、適切な判断や工夫、表現をする力を身につけている。	・子どもの発達や保育にかかわる職業について関心をもち、地域の保育や子育て支援を通じて子どもの健やかな発達に寄与しようとする意欲的な態度を身につけている。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期	中 間 考 査	1章子どもにかかわる職業を知ろう！ ① 保育の意義② 保育の環境③ 保育の方法	(知)	・さまざまな職業が子どもや保育に直接的・間接的にかかわっており、子どもの健やかな発達に寄与していることを理解している。		○	○	○		12
			(思)	・自分の将来における子どもへのかかわりについて、職業や、かかわる内容、子どもの保育の特徴や、保育者に求められる姿勢などについて要点をまとめることができる。		○		○		
			(態)	・子どもにかかわる職業について関心をもち、自身が希望する職業に就くために必要なことを調べるなど、情報を収集・整理しようとしている。		○		○	○	
1 学期	期 末 考 査	2章 章末 保育の課題に取り組もう！① ① 子どもの発達の特性 ② 乳幼児の発育と発達 章末 保育の課題に取り組もう！② ① 子どもの健康と生活② 子どもの食事	(知)	・子どもの発達の共通性・個別性について理解している。・子どもの発達は、身体の発育と心や身体の機能の発達が相互に関連してなされていくことを理解している。	○	○	○	○		12
			(思)	・母子健康手帳などの資料を見ながら、発達の各側面が相互に関連し合っていることを読み取り、具体的に考察することができる。		○		○		
			(態)	・自身が保育者になることを想像しながら、子どもにとって適切な保育を行うためにかかわり方を工夫するなど、積極的に取り組む姿勢が見られる。		○		○	○	

2 学 期	中 間 考 査	3、4章 ③ 子どもの衣服と寝具 ④ 子どもの健康と安全 章末 保育の課題に取り組もう！③	(知)	・乳幼児の発達や生活の特徴から、適切な衣服・寝具の状態について理解する。 ・子どもの衣生活を支える着替えや衣服づくりの仕方を理解し、基礎的な技術を身につけている。	○	○	○	○	16
			(思)	・子どもが快適で安全な衣生活を送るために、衣服選びや着せ方をどう工夫するべきかなど、自分の考えをまとめたり、発表したりすることができる。		○		○	
			(態)	・子どもの着替えやおむつ替えなどをする際にどのようにかわるかなど、自分が保育者や親になったときを想像し、自分ごととして捉えようとしている。		○		○	
2 学 期	期 末 考 査	① 保育にみる児童観 ② 児童福祉の理念と法規・制度 章末 保育の課題に取り組もう！④	(知)	・世界・日本の児童観や子どもの福祉の変遷の歴史が、現代のさまざまな法律や制度に生かされていることを理解している。 ・児童福祉の理念と特徴、法律や制度、福祉にか		○	○	○	16
			(思)	・児童虐待や貧困など、具体的な問題を通じて子どもの福祉の必要性を考察し、自分の考えをまとめたり発表したりすることができる。		○		○	
			(態)	・自身が保育者になることを想像しながら、子どもや保護者を支えることを目標にして積極的に支援策を考えようとしている。		○		○	
3 学 期	学 年 末 考 査	5章 ① 子どもの文化の意義③ 子どもと遊び④ 子どもの表現活動章末 保育の課題に取り組もう！⑤	(知)	・子どもの文化やそれを支える場の役割や意義を理解している。	○	○	○	○	22
			(思)	・子どもの文化の現状を捉え、今後の課題について考察することができる。		○		○	
			(態)	・身近な地域の遊びについて関心をもち、公園などの利用状況や、遊び場を支えるNPO法人などの活動について積極的に調べようとしている。		○		○	
合計									78

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画（シラバス）

教科・分野：	家庭	科目：	フードデザイン	単位数：	2	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	フードデザイン（実教出版）		副教材				

年間指導目標：

・栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。・食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。・食生活の充実向上を目指して自ら学び、食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

評価規準	知識・技能（知）	思考力・判断力・表現力（思）	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力（態）
	栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなど、フードデザインに必要な要素を相互に関連付けて理解し、実践できる技術を習得している。	多面的に食生活の現状を捉えて思考を深め、食生活の充実向上を目指して自ら課題を発見するとともに、家庭や地域の実情に合わせてより豊かな食生活を創造することによって、課題を解決できる。	人々の健康の保持増進と健全な食生活の実現を図るために、進んで学ぶ姿勢を持ちつ、食材を適切に選択し作成から食べるところまでを総合的に捉えて、主体的に計画・実践することができる。また、習得した知識や技術を積極的に活用し、食育の推進に他と協働して取り組むことができる。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期	中 間 考 査	2章 1 節 栄養素のはたらき 1 節 食品の特徴と性質	(知)	栄養素の種類と働きについての知識を習得することができる。消化・吸収について理解し、食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化についての知識を習得することができる。		○	○	○		12
			(思)	・食品の特性を図表などから科学的に考察できる。・食品の特徴、調理上の性質及び調理による成分の変化を実験を通して観察し、考察することができる。		○		○		
			(態)	・食品の特徴や、調理操作によって変化する食品の成分に関心を持とうとしている。		○		○	○	
1 学期	期 末 考 査	6章 1 節 献立作成 2 節 食品の生産と流通 3 節 食品の選択と表示 4 節 食品の衛生と安全	(知)	・食品の特徴や、調理操作によって変化する食品の成分に関心を持とうとしている。・食事のテーマに応じた献立作成、食品材料の選択と調理など、一連の流れを計画し実践ができる。	○	○	○	○		12
			(思)	・具体的な食事テーマを設定し、その目的に応じた献立を考えることができる。		○		○		
			(態)	・食事のテーマにふさわしい献立や食卓の整え方、周囲の環境づくりを行おうとする意欲・関心が感じられる。		○		○	○	

2 学 期	中 間 考 査	6章 1 節 献立作成 1章 1 節 食事の意義と役割	(知)	・食事のテーマに応じた献立作成，食品材料の選択と調理，テーブルコーディネートと料理のサービス方法など，一連の流れを計画し実践ができる。		○	○	○		16
			(思)	・具体的な食事テーマを設定し，その目的に応じた献立を考えることができる。・作成した献立に適した食品を選択する事ができる。		○		○		
			(態)	・食事のテーマにふさわしい献立や食卓の整え方，周囲の環境づくりを行おうとする意欲・関心が感じられる。		○		○	○	
2 学 期	期 末 考 査	2 節 食をとりまく現状 3 節 食品の選択と表示	(知)	・食事は，栄養を供給し，生命の維持や健康の保持増進を図ると同時に，精神的な役割や文化的な役割を果たしていることが理解できる。	○	○	○	○		16
			(思)	・心身ともに健康で豊かな食生活を営むための食事のあり方について思考を深め，自分の食生活の現状を判断することができる。さらに，レポートを通して発表することができる。		○		○		
			(態)	・自分自身の食生活や日本の食生活の現状に関心を持ち，改善しようとする意欲が感じられる。		○		○	○	
3 学 期	学 年 末 考 査	7章 1 節 食育の意義と推進活動	(知)	・食育活動について情報を収集・整理し，考えをまとめることができる。	○	○	○	○		22
			(思)	・食についての課題を見だし，その解決を目指した食育活動について思考を深めることができる。		○		○		
			(態)	・食育の意義と活動に関心を持とうとしている。		○		○	○	
合計										78

東京都立八王子桑志高等学校 令和7年度 年間指導計画(シラバス)

教科・分野：	保健体育	科目：	生涯体育(自由選択)	単位数：	2	指導学年：	3
担当教諭：							
使用教科書	現代高等保健体育 改訂版(大修館)	副教材					

年間指導目標：
①より深く専門的な運動の知識や技能を身に付ける。
②話し合いを通じて、仲間と協働しながら課題解決をする力を養う。
③進路を見据えた種目選択をおこない、より高みを目指して主体的に取り組む。

評価規準	知識・技能(知)	思考力・判断力・表現力(思)	主体的に学習に取り組む態度・学びに向かう力(態)
	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための理論について理解しているとともに、より専門的で高度な技能を身に付けている。	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。	球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、生涯を通してスポーツを継続するとともに、スポーツの推進及び発展に起訴する態度を養う。

評価方法				
a:定期考査	b:パフォーマンス (実技・実習・課題)	c:小テスト等	d:自己評価	e:授業態度

学期	考査	単元及び指導内容	観点	評価規準	a	b	c	d	e	配当 時数
1 学期	中 間 考 査	オリエンテーション 体づくり運動	(知)	発見した動きの改善点や多様な仲間とともにスポーツを楽しむための調整の仕方、協議会の運営方法などについて、活動場面で判断し仲間に伝えることができる。		○				12
		種目選択(前期) 以下の種目から選択 【球技】 ・ゴール型 バスケットボール ハンドボール サッカー ・ネット型 バレーボール	(思)	それぞれの競技の特性を踏まえたうえで、課題を発見し、思考し判断するとともに、仲間と協働しながら課題解決をすることができる。				○		
			(態)	生涯にわたってスポーツを楽しむ際の公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、学習に主体的に取り組むことができる。					○	
1 学期	期 末 考 査	卓球 テニス バドミントン ・ベースボール型 ソフトボール	(知)	発見した動きの改善点や多様な仲間とともにスポーツを楽しむための調整の仕方、協議会の運営方法などについて、活動場面で判断し仲間に伝えることができる。		○				12
		【陸上競技】 ・短距離走、ハードル走 ・走り幅跳び、走り高跳び	(思)	それぞれの競技の特性を踏まえたうえで、課題を発見し、思考し判断するとともに、仲間と協働しながら課題解決をすることができる。				○		
		【水泳】 ・クロール、平泳ぎ	(態)	生涯にわたってスポーツを楽しむ際の公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、学習に主体的に取り組むことができる。					○	

2 学 期	中 間 考 査	オリエンテーション 体づくり運動	(知)	発見した動きの改善点や多様な仲間とともにス ポーツを楽しむための調整の仕方、協議会の運営 方法等などについて、活動場面で判断し仲間に伝 えることができる。		○				16
		種目選択(後期) 以下の種目から選択 【球技】 ・ゴール型 バスケッボール ハンドボール サッカー ・ネット型 バレーボール	(思)	それぞれの競技の特性を踏まえたうえで、課題を 発見し、思考し判断するとともに、仲間と協働し ながら課題解決をすることができる。				○		
			(態)	生涯にわたってスポーツを楽しむ際の公正、協 力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、 学習に主体的に取り組むことができる。					○	
2 学 期	期 末 考 査	卓球 テニス バドミントン ・ベースボール型 ソフトボール	(知)	発見した動きの改善点や多様な仲間とともにス ポーツを楽しむための調整の仕方、協議会の運営 方法等などについて、活動場面で判断し仲間に伝 えることができる。		○				16
		【陸上競技】 ・短距離走、ハードル走 ・走り幅跳び、走り高跳び	(思)	それぞれの競技の特性を踏まえたうえで、課題を 発見し、思考し判断するとともに、仲間と協働し ながら課題解決をすることができる。				○		
		【水泳】 ・クロール、平泳ぎ ・背泳ぎ、バタフライ	(態)	生涯にわたってスポーツを楽しむ際の公正、協 力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、 学習に主体的に取り組むことができる。					○	
3 学 期	学 年 末 考 査		(知)	発見した動きの改善点や多様な仲間とともにス ポーツを楽しむための調整の仕方、協議会の運営 方法等などについて、活動場面で判断し仲間に伝 えることができる。		○				22
			(思)	長距離走の特性を踏まえたうえで、課題を発見 し、思考し判断するとともに、仲間と協働しなが ら課題解決をすることができる。				○		
			(態)	生涯にわたってスポーツを楽しむ際の公正、協 力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、 学習に主体的に取り組むことができる。					○	
合計										78